

1. 整備計画									
計画の名称	東海道本線袋井・磐田間新駅を核としたまちづくり								
計画の期間	平成29年度	～	令和3年度	交付対象	静岡県、磐田市				
計画の目標	東海道本線袋井・磐田間新駅を核に、「労働・住環境・交流」を兼ね備えた総合力の高いコンパクトなまちづくりを展開する。								
計画の成果目標 (定量的指標)									
新駅設置事業や土地区画整理事業、都市再生整備計画事業等による基盤整備を行い、区域内の居住環境の向上と共に定住者数の増加を図り、地域の魅力発展を目指す。									
定量的指標の定義及び算定式				定量的指標の現況値及び目標値			備考		
				当初現況値	中間目標値	最終目標値			
				(H29当初)	(R元末)	(R3末)			
① 新駅設置事業や土地区画整理事業、都市再生整備計画事業等による基盤整備を行い、区域内の居住環境の向上と共に定住者数の増加を図り、地域の魅力発展を目指す。 新駅開設に伴う新駅の乗車人員の増加				0人	1000人	1500人			
② 新駅設置事業や土地区画整理事業、都市再生整備計画事業等による基盤整備を行い、区域内の居住環境の向上と共に定住者数の増加を図り、地域の魅力発展を目指す。 新駅を中心とした戸建住宅戸数の増加				390戸	戸	410戸			
③ 新駅設置事業や土地区画整理事業、都市再生整備計画事業等による基盤整備を行い、区域内の居住環境の向上と共に定住者数の増加を図り、地域の魅力発展を目指す。 地区周辺住民を対象とした市民意識調査で「住みやすい」と答える市民の割合				55%	%	60%			
全体事業費	合計 (A+B+C)	1,947 百万円	A	1,947 百万円	B	C	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)		
事業種別	主な交付対象事業	要素となる事業名 (事業箇所)		事業内容 (延長・面積等)		市町名	全体事業費 (百万円)	備考	
基幹事業		新貝地区 ( (都) 三ヶ野鎌田線 外4路線)		区画整理 A=40.4ha		磐田市	200		
事業数		鎌田第一地区 ( (都) 三ヶ野鎌田線 外1路線)		区画整理 A=25.2ha		磐田市	450		
4		都市再生整備計画事業 (磐田新駅周辺地区)		公園、高質空間、地域生活、提案事業		磐田市	877		
2. 事業の進捗状況 (○: 計画期間中に完成 △: 計画期間終了後に完成見込 -: その他 (備考欄に具体的に記入 (中止、未実施等)) (計画期間中に他の整備計画に移行したもので、●: 本計画の期間中に完成 ▲: 本計画の期間終了後に完成見込)									
計画の移行なし	○	2	△	2	-	備考	計画の移行あり	●	▲
3. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況									
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況									
新駅や周辺施設が整備されたものの、コロナ禍による通勤通学の利用者の減少やイベント等の開催中止により思うように鉄道利用者数が伸びなかった。新駅のオープンによる交通利便性の向上、土地区画整理事業における道路や公園などの整備による住環境の向上により、定住化が進んだものと考えられる。地区周辺の住民のうち「ずっと住み続けたい」人の割合は微減したものの、「当面の間、住み続けたい」人を含めると継続した居住意向がある人の割合は増加しており、新駅アクセス道路の照明、案内板の設置や駐車場の設置、公園の整備等による利便性や快適性向上の効果が出ているものと考えられる。									
II 定量的指標の達成状況		指標① (新駅開設に伴う新駅の乗車人員の増加)	最終目標値	1500人	目標値と実績値に差が出た要因	コロナ禍による外出自粛、リモートワーク、イベントの中止等により鉄道利用者数が減少したと考えられる。			
			最終実績値	1287人					
		指標② (新駅を中心とした戸建住宅戸数の増加)	最終目標値	410戸	目標値と実績値に差が出た要因	地区内の戸建て住宅戸数は、土地区画整理事業の進捗と共に増加し、定住化が進んだものと考えられる。			
			最終実績値	601戸					
		指標③ (地区周辺住民を対象とした市民意識調査で「住みやすい」と答える市民の割合)	最終目標値	60%	目標値と実績値に差が出た要因	新駅を中心とした土地区画整理事業が進んでいる中で、交通利便性は向上しているものの、駅周辺の土地利用が進んでいないことから、住みやすさの満足度が伸びなかったと考えられる。			
			最終実績値	46%					
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況									
新駅のオープンによる交通利便性の向上、土地区画整理事業における道路や公園などの整備による住環境の向上により、「住まいの環境」が良好と思う人の割合が増加したと考えられる。									
4. 今後の方針等									
引き続き人口の密着を図るため、土地区画整理事業の未整備箇所の事業を推進する。									
快適で魅力的な住環境を維持するため、施設の定期点検や住民参加による維持管理体制を整える。									
基盤整備された駅北側は、市の都市拠点として相応しく、住環境の向上を図ることが可能な施設の誘導を図る。									

## (1) 事業の目的

新駅を核に、「労働・住環境・交流」を兼ね備えた総合力の高いコンパクトなまちづくり

## (2) 指標

指標①：新駅開設に伴う新駅の乗車人員の増加（約1,500人の増加）

指標②：新駅を中心とした戸建て住宅戸数の増加（約20戸の増加）

指標③：地区周辺住民を対象とした市民意識調査で「住みやすい」と答える市民の割合  
（約5%の増加）

### 指標の達成状況

新駅の乗車人員の最終実績値は1,287人であり、目標（1,500人）を達成しなかった。その理由はコロナ禍による外出自粛、リモートワーク、イベントの中止等によるものと考えられる。

一方で戸建て住宅戸数の最終実績値は601戸と、目標（410戸）を大きく上回った。

また、市民意識調査の最終実績値は46%であり、目標（60%）を達成しなかった。これは、駅周辺の土地利用が進んでいないことから、住みやすさの満足度が伸びなかったと考えられる。

計画の成果目標	定量的指標		
	H29当初	R3末最終目標	最終実績
新駅開設に伴う新駅の乗車人員の増加	0人	1,500人	1,287人
新駅を中心とした戸建て住宅戸数の増加	390戸	410戸	601戸
地区周辺住民を対象とした市民意識調査で「住みやすい」と答える市民の割合	55%	60%	46%

## (3) 指標に関連する実施事例



## (4) 定量指標以外の効果発現状況

新駅のオープンによる交通利便性の向上、土地区画整理事業における道路や公園などの整備による住環境の向上により、「住まいの環境」が良好と思う人の割合が平成28年度には24.9%、令和2年度には46.8%と約2倍に増加したと考えられる。

## (5) 今後の方針と目標達成見込み

引き続き人口の密着を図るため、土地区画整理事業の未整備箇所の事業を推進する。

快適で魅力的な住環境を維持するため、施設の定期点検や住民参加による維持管理体制を整える。

基盤整備された駅北側は、市の都市拠点として相応しく、住環境の向上を図ることが可能な施設の誘導を図る。



(参考様式3) 参考図面

